

サウンドパフォーマンス

『虐殺と再生の音響的記念碑』

"sonic monument of genocide and rebirth"

“இனப்படுகொலை மற்றும் மறுபிறப்பின் ஒலி நினைவுச்சின்னம்”

演出・出演・宣伝美術：イラヴェニル・ヴァスキー・ジャヤパラン (NAGAYER)



© Ljerka Kukurin for Coast Contemporary

KAC×OCAレジデンスプログラムでイーラム・タミル系のマルチメディアアーティストが作品発表
音とともに現われ消える「追悼の碑」でスリランカ内戦の記憶を継承する

京都芸術センターでは、2022年よりOffice for Contemporary Art Norway（ノルウェー）とのアーティスト・イン・レジデンス・プログラム：エクステンジを実施しています。今年度は、イーラム・タミル系のマルチメディアアーティストのイラヴェニル・ヴァスキー・ジャヤパラン（NAGAYER）を招聘し、10月からの滞在では能面師・宇高景子氏のもとで2か月間にわたり能面制作に取り組んでいます。能面の彫刻作業を通じ、その技法に息づく能の精神性に触れつつ、儀式とパフォーマンス、神話と物質性、存在と不在の間の繋がりを探求し、今後の創作活動への足掛かりとなることを目指します。

今回のショーケースでは、ジャヤパランの多様な作品展開の中から音楽活動に光を当て、『虐殺と再生の音響的記念碑』"sonic monument of genocide and rebirth"を京都芸術センターにて上演いたします。本作は、離散したタミル人という背景をもつ作家が、民族間の対立による内戦で混迷を極め軋轢を残すスリランカ社会を俯瞰し、内戦で犠牲となったイーラム・タミル人に捧げる記念碑としてのサウンドパフォーマンスです。サイケデリックな音と光と影で立ち上げる音響空間は、破滅と再生を象徴するタミル神話の「Naga（ナーガ）／蛇神」に着想を得ており、「殲滅—荒廃—怒り—再生—報復—勝利—祝祭—繁栄」を巡る超越的な世界へ通じます。その旅路で私たちは人間に内在するこれらの記憶や物語を呼び起こすでしょう。グルーヴィーかつ重厚なサウンドが交錯する時空間に浮かび上がるシルエットは何を映し出すのでしょうか。ノルウェー、イギリス・ロンドンでの上演を経て、今秋、京都での発表に挑みます。一夜限りの没入体験にご期待ください。

◆日時：2025年11月29日(土)17:00開演

◆上演時間 40分／要予約／無料／自由席

◆会場：京都芸術センター フリースペース

◆公演ページ：<https://www.kac.or.jp/events/251110/>

※未就学児入場不可。



演出・出演・宣伝美術：イラヴェニル・ヴァスキー・ジャヤパラン

舞台監督・照明：十河陽平 | 音響：植松幸太 | 制作：西田祥子、雪岡純、原田直子 | 協力（能面制作指導）：宇高景子

主催：京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、Office for Contemporary Art Norway

共催：特定非営利活動法人 ANEWAL Gallery、京都府住宅供給公社

◆アーティストステートメント

2009年以降、スリランカ、占領下のイーラム※、オンライン上、そして我々のディアスポラが存在する多くの国々において、イーラム・タミル人に対する継続的なジェノサイド（虐殺）の犠牲者を追悼する記念碑や行為さえもテロ組織の美化を理由に違法とされています。意図的に市民と革命家の境界線を曖昧にしているのです。しかし、多くのイーラム・タミル人は継続的な脅威にもかかわらず追悼行為を行ってきました。このような状況を踏まえ発表する本作は、私が各地を巡り立ち上げる追悼の碑です。

“இனப்படுகொலை மற்றும் மறுபிறப்பின் ஒலி நினைவுச்சின்னம்” / 『虐殺と再生の音響的記念碑』は、音の空間性という概念を扱う音響ベースのパフォーマンスです。音そのものから生まれる構造体。私は音を、空間を保持し、曲げ、あるいは溶かすことのできる物質として捉えています。それぞれの振動はある種の構造物へと変容し、蓄積していきます。それは私たちを取り囲み、私たちの中を通り抜け、私たちがその空間にどのように存在するかを変容させるのです。私は光と影を操りながらこれらの音の要素が生み出す空間を探索したいのです。また、能面がその作り手の痕跡を宿すように、影にも同様に痕跡が宿るかを探索したいのです。

※イーラム：タミル語で、島の北部と東部地域に広がるイーラム・タミル人の伝統的な故郷を指す。ポルトガル、オランダ、イギリスによって相次いで植民地化された。かつてセイロンと呼ばれたこの島は、1948年にイギリスから独立し、1972年にスリランカ共和国となった。これによりタミル人は自らの故郷で少数派となり、組織的な抑圧とジェノサイドに晒されることとなった。

イラヴェニル・ヴァスキー・ジャヤパラン (NAGAVAR)

◆プロフィール

イラヴェニル・ヴァスキー・ジャヤパラン

Ilavenil Vasuky Jayapalan (NAGAVAR)

ノルウェー・オスロ出身のイーラム・タミル系のマルチメディアアーティスト、ミュージシャン。1991年生まれ。映画、音楽、メディアの世界から深い影響を受け、ポストコロニアルな国民国家の物語によって形作られる国民意識と、そうした構造から排除されたり、強制的に吸収される人々の生活との間にある緊張や認知的不協和を軸に作品を展開している。自由、真理、欲望という概念は繰り返し登場するテーマであり、同氏の作品では技術と権力、ジェノサイドと再生、進化、クィア性、新優生学、そしてヒンドゥー教と仏教の宇宙観を通して見られるタミルの精神性などが絡み合っている。その結果、現代社会の周縁から浮かび上がる未来を考察する作品群が生み出されている。NAGAVARは音楽活動名で、「Naga（ナーガ）」は蛇神の意。



© Nagozhi Sivapadham

能面制作の様子 ▶



◆お問い合わせ、取材のご依頼

京都芸術センター 担当：雪岡 純 E-mail：yukioka@kac.co.jp TEL：075-213-1000